

がんばった仲間とともに

多くの学校で行われた体育祭では、生徒たちが汗だくとなってその準備や練習に励みました。

高校3年生のAさんは、体育祭でクラスごとに行われる集団演技のリーダーに選ばれ、思い出に残る、クラスがひとつになった演技をしたいと考えました。練習に入り、熱心さのあまり意見の違う生徒と衝突したり、消極的な姿勢をとる生徒に厳しい言葉を発することもありました。Aさんは、クラスの一部からの反発を感じながらも、集団演技の練習をどんどんすすめていきました。そんなAさんが、体育祭前日の練習で、無理な体勢をとったため足を強く捻挫してしまったのです。

当日の正面テントでは、松葉杖をつきながら、さびしく競技を見つめているAさんの姿がありました。いよいよ集団演技の時間となり、各クラスの演技が始まりました。Aさんは自分が参加できない悔しさと、「私はみんなに厳しい態度を取りすぎていたのでは。」との後悔の思いを強く感じていたそうです。そんなAさんの所へクラスの数人の男子が走り寄ってきて、有無を言わず、Aさんをおぶってクラスの集団演技の輪に連れていきました。

「Aさんがいたから、みんなここまでがんばれたよ。」

クラスのみんなは「高校最後の体育祭をがんばった仲間とともに演技し、かけがえのないものにした。」というAさんの思いを痛いほどわかっていたのです。グラウンドには仲間におぶさりながら、恥ずかしいけど、それ以上に自分を丸ごと受けとめてくれたことがうれしくて涙ぐむAさんと、仲間たちのあふれんばかりの笑顔がありました。

子どもたちは学校の様々な活動で、仲間と衝突し、意見がぶつかることもありますが、それを機に互いを認め、理解し、友だちを大切に思う気持ちを育んでいます。